



冬の胃腸カゼ

いよいよ寒くなってきました。

この時期になると毎年、感染性胃腸炎（胃腸カゼ）が流行します。今回は冬の胃腸カゼをひき起こす代表として、ノロウイルスとロタウイルス感染症を紹介したいと思います。

ノロウイルス

ノロウイルスはカキやアサリのような二枚貝の中で濃縮されると言われ、これを生食あるいは十分加熱せずに食することで食中毒として発症します。そして、発症した人のおう吐物や糞便を介して他の人にうつっていきます。

おう吐物は乾燥すると空気中に飛散します。ウイルスは乾燥状態でも数週間生きていますので、それを吸い込むことにより感染します。

また、ウイルスは非常に小さいので、トイレットペーパーの網目を簡単に通過してしまいます。ある実験によると、トイレットペーパーを36枚重ねないとウイルスの通過を阻止できなかったそうです。つまり、トイレに行った感染者が、手を洗うまでの間に触ったものすべてにウイルスが付着している可能性があります。

症状

潜伏期間は1～2日です。

症状は吐き気、おう吐、腹痛、下痢に発熱です。

おう吐の前に腹部膨満感を訴えることもあります。

治療

吐いて、下痢をして38度の発熱ですからさうとう辛いです。

これだけ揃うと容易に脱水症を引き起こすので、脱水症に対する治療が主となります。経口補水液の摂取や点滴を行うことが必要です。

おう吐はだいたい1日で治まり、下痢も3日で止まりますが、症状が治まってもウイルスはまだ1週間は糞便から排泄されるので、注意が必要です。

予防

生食用でない貝は加熱して食べることで、85度以上の熱で1分以上加熱すると死滅します。

おう吐物や糞便は直接触れないようにし、必ず手袋をして扱ってください。もちろん手洗いも入念にお願いします。

アルコール消毒は効果が無いので、塩素系の漂白剤で汚れたところは拭いてください。

ロタウイルス

潜伏期間は1～3日です。

ノロウイルスと違って食中毒として発症することはありません。

小児は5歳までに100%感染すると言われており、大人は感染した小児からうつることで発病します。

症状はノロウイルスと同様で、おう吐、下痢、発熱ですが、下痢は7日程度続きます。ロタウイルス感染による下痢便は白色で、米のとぎ汁様であるのが大きな特徴です。

小児では、ひどい下痢と発熱のために脱水症が重症化しやすく、世界における小児死亡者数の最も多い原因の一つです。

また、合併症として脳炎を引き起こすこともあるため、非常に厄介なウイルスです。

このため、乳児に対してはロタウイルスワクチンがあり、接種が推奨されています。

治療と予防はノロウイルスと共通です。

